社協 那加一地区だより

～気配り・声かけ・ほんの少しのおせっかいができるまちづくり～

平成28年度　9月15日
No.44
編集・発行
各務原市社会福祉協議会
那加一地区

相手の立場に立って　～やってみて、思い、考え、行動～

５月27日（金）那加第一小学校の４年生が、「福祉体験学習」をしました。例年の「車いす」「点字」「手話」に加えて、今年は「高齢者擬似体験」をしました。肘あて・膝あて・手や足の重り・ヘッドホーン等の用具を身に着けて、動きにくさや聞きにくさを体験しました。

点字サークル「あけぼの会」、手話サークル「はにわ会」聴覚障がいの方を講師に招いて学習しました。そして、自治会長・民生委員児童委員・主任児童委員の方々にもお世話になりました。

「たいへんだ」

四年　斎藤　百々音

わたしは、高れい者体験をしてとてもびっくりしました。わけは、人は年をとっても手足を自由に曲げられると思って体験したら、曲げにくかったし、色もオレンジがピンクとかになったように見えていて、耳も声が聞きにくかったし、足や手におもりをつけたら、動きづらかったから、すごくたいへんだと思いました。そんなふたんがかかるのに「見まもりたい」や、「地いき行事」に出てくださりすごいと思いました。

わたしは、高れい者がいたら荷物をもったりしたいです。

「高齢者体験」

四年　藤村　ゆう太

ぼくは、高れい者体験をして、大へんだということがわかりました。

理由は、用具をつけるとひざがまがらないし、目も見にくかったし、耳もとおくなったし、とてもすわりにくかったです。だから、今日ぼくは、高れい者の気持ちがわかりました。

歩いたら、足とうでが、重たくて、思うように動けなかったので、高れい者の方は、つらいんだなと思いました。

今日は、体験させてくださってありがとうございました。

「手　話」

四年　大矢　光羽音

わたしは、今日の福祉体験で一番印象にのこったのは手話です。

手話は、耳が不自由な人が使うものです。わたしは、電話の音や、げんかんのチャイムが聞こえなかったらどうするんだろうと気になっていました。でも、横山先生がとてもいねいで、電話はファックスで、げんかんのチャイムは、ボタンをおすとライトがついてしらせてくれることがわかりました。

他にも、「ありがとう。」や、「おはよう。」などの手話を教えてもらって、手話のことがもっとしりたいと思いました。

「ふくし体験をおえて」

四年　長田　り音

わたしが今日、高れい者体験で学んだことは、高れい者体験用のものをつけて足や手が曲がらなくて動かなかったり、耳が聞こえにくかったりして、高れい者の方はとても生活するのが大へんだということです。

そして、これからわたしは、道で重い荷物をもっている人を見たら、進んでもったり、横だん歩道をわたるときは、いっしょにわたったり、相手がえ顔になるような手づだいをして助けたいと思いました。

「お年寄りを囲む会」に来て下さい！

※９月24日（土）までに自治会長へ申し込みを！

お弁当を用意して待っています。

10月21日（金）65歳以上の１人暮らしの方及び75歳以上の方を対象に「お年寄りを囲む会」を開催します。那加保育所園児、那加一小児童や、那加中生徒の演技や歌、「二胡」の演奏など楽しい沢山の催しを計画しています。後ほど自治会からも参加の呼びかけを致しますので、多数の参加をお願いします。

「高齢者健康づくり教室」に参加

ヨガ体操やってみた。心も体もの～びのび！

講師　ホリスティックヨガインストラクター　**岩水　ゆき恵**さん

総勢119名参加、老若男女楽しいひと時を！

６月10日(金)、那加一小体育館にて

ヨガ体操は初めての経験でしたが、普段使わない筋肉等を動かし、気持ちの良さと体力の衰えを感じました。

健康意識に関心を持つ事と自ら実践して体操を行う行動が、日々の健康づくりにつながると実感いたしました。自らが健康体でいる事が、家族や周りの人に心配を掛けないことであるとともに、社会の一員としてお役に立てる機会があるかもしれませんので、これからも頑張りたいと思います。継続は力なり。

最後に、たくさんの方に参加していただいたことに感謝致します。皆様の健康意識の高さを改めて感じました。

近隣ケアグループ研修会実施（7/15(金)）

1部　医師による認知症講話

“治る認知症と治らない認知症がある。”

水井偵一郎先生（かわしまファミリークリニック院長）による講和。**様子が変だ？と思われたら早めに専門医に相談。又、高血圧、高コレステロール、糖尿病等の薬は数値を下げるのが目的でない、血管の詰りを防ぐのが目的である。**等84名の皆さんが熱心に耳を傾けられました。

2部　桐野町のボランタリーハウス紹介

“設立の動機と活動内容”

ボランタリーハウス代表の村瀬広昭さんにお話をして頂きました。

交流の場をつくることは、私の任務と考え、行動を起こしました。まず、やってみることです。皆さん、ボランタリーハウスをつくりましょう。

1）「ボランタリーハウス」ってなあに?

閉じこもりがちな高齢者は、子育て世代などと地域住民が、自宅から歩いて行ける場所に気軽に集い、協働で企画し活動内容を決め、ふれあいを通して生きがいづくり、仲間づくりの輪を広げる拠点場所です。那加一校下では、現在、下記４自治会にボランタリーハウスが有り運営されています。

（①浜見町自治会　②琴が丘自治会　③西市場自治会　④桐野町自治会）※４月１日現在

2）「近隣ケアグループ活動」ってなあに?

近隣ケアグループ活動とは、自治会地域などを基本に支援が必要な高齢者・独居者・障がい者などの方々に「声かけ・見守り」などを通して地域で支える取り組みです。

※（現在、那加一校下では16グループ119名、市全体では299グループ2164名の方々が活動されています。）